SwitchXS®2.5

for Mac OS X

スイッチユーザ向けコンピュータアクセス方法

ユーザーズマニュアル

by AssistiveWare®

(Manual translated by Satomi Hanaoka)

AssistiveWare
Van Speijkstraat 73-D
1057 GN Amsterdam
The Netherlands
Europe

fax: +31-20-6128266
http://www.assistiveware.com

SwitchXS contact:

SwitchXS@assistiveware.com

SwitchXS, the SwitchXS application icons, and the SwitchXS documentation are copyright David Niemeijer 1996-2005. All rights reserved.

The SwitchXS application icon (which also features on the cover of this manual) was designed by Giesbert Nijhuis using KeyStrokes®, a HeadMouse® and Photoshop®.

The Japanese version of the software and manual were done under supervision of AT-Market, Satomi Hanaoka. Special thanks go to Nariki Osugi/Senior Researcher at National Institute of Special Education (NISE), Japan for the Japanese scan panels and to Shinichi Isoda for the translation of the manual.

This software was written by David Niemeijer. Special thanks are due to Rudo Niemeijer, Giesbert Nijhuis and the beta testers including, but not limited to: Marie-France Bru, Idvig Dal, Mark Griffin, Satomi Hanaoka, Jeremy Janson, Clair Judas, Bill Lee, Fabrice Montant, Nariki Osugi, Michael Phillips, Joseph Salinas, and Ian Wolstenholme. We would also like to thank Apple Computer for its technical support in solving the technical issues we faced when developing this application for Mac OS X.

AssistiveWare is a trade name and registered trademark of Niemeijer Consult. SwitchXS, LayoutKitchen, KeyStrokes and SmartTransparency are trademarks or registered trademarks of Niemeijer Consult. Macintosh, Power Macintosh, Mac, and Mac OS are trademarks of Apple Computer, Inc., registered in the U.S. and other countries. HeadMouse is a registered trademark of Origin Instruments Corporation. Photoshop is a registered trademark of Adobe Systems Incorporated.

Use of SwitchXS is subject to the license agreement located towards the end of this manual.

もくじ

はじめに 5

クイックスタート 5

主な機能 7

必要なコンピュータシステム 7

インストール 8

ダウンロード版の利用情報設定 8

CD 版の利用情報設定 9

ユーザー登録 9

単一もしくは複数スイッチの設定方法 9

スキャンウインドウの使い方 11

基礎 11

マウスボタン 12

キー 14

特殊ボタン 15

SmartTransparency™（スマートトランスペアレンシー）の使用 17

スキャンパネルのカスタマイズ 18

単語予測機能の利用 18

音声、コミュニケーションのための SwitchXS 18

環境設定 19

環境設定画面へ 19

一般 19

スイッチ 20

スキャン 21

キーボード 22

マウス 24

音声 25

SmartTransparency™（スマートトランスペアレンシー）の使用 26

便利な機能 28

すべて初期状態にリセットする 28

不具合情報 29

Exposé との相性 29

フルスクリーンで動作するアプリケーションとの相性 29

ログインウィンドウとパスワードで保護された
スクリーンセーバー 29

Mac OS の標準アクセシビリティ機能 29

接続されていない装置 30

入力メニューのスキャン 30

キーをスイッチとして使用する 30

よくある質問（FAQ） 31

サポート 32

サポート手順 32

地域販売店 32

ソフトウェアライセンス承諾書（英語） 33

はじめに

SwitchXS®は、 単一又は複数のスイッチを利用している方々を対象に、Mac OS X、さらに標準的な Mac 用アプリケーションに対して、完全な操作性を実現する為のソフトウェアです。「スキャニングモード」と呼ばれる画面上のパネルを使い、マウスとキーボードを完全に代替します。
「カーソルを上に移動」や「Ｂという文字を入力」など、スイッチを押すことによって、スキャンしているメニューの中から自分がしたい動作を選択することが可能です。

SwitchXS には多数のスキャンパネルを添付しており、全ての標準マックアプリケーション上で、カーソル移動、クリック、文字入力を可能にしています。ユーザご自身に合わせて、スキャンのスピード・回数、マウススピード、キーの繰り返し、スピーチキュー音の設定が可能です。さらに、スキャン状態でないときは「SmartTransparency™（スマートトランスペアレンシー）」を使い、パネルを半透明～全透明まで設定出来、画面を有効活用することもできます。 SwitchXS は、全ての HID 規準 USB ゲームパッドやジョイスティック、キーボード、また全ての HID 規準の USB マウスやトラックボールなどで動作します。さらに SwitchXS は上記機器を代替した全ての USB スイッチインターフェースでもお使い頂けます。

SwitchXS には LayoutKitchen ®が付属しております、それは、ユーザご自身がにスキャンパネルを作成できるエディタです。単語予測においては、他の多くの言語と同様にローマ字アルファベットを使用する言語で、SwitchXS は KeyStrokes と組み合わせて使用可能になります。

クイックスタート

SwitchXS の使用はとても簡単です。USB スイッチインターフェースやゲームパッド、ジョイスティックなどをコンピュータに繋ぐか、または通常のキーボードでご利用ください。マウスやトラックボール、またはマウスを代替したスイッチインターフェースでもお使い頂けます。SwitchXS をインストールするには、画面上でディスクイメージのファイルまたは CD から SwitchXS フォルダをアプリケーションフォルダ（推奨）もしくは、ハードディスクにドラッグして下さい。SwitchXS を実際に起動するには、SwitchXS のアイコンをダブルクリックします。

SwitchXS が起動したら、SwitchXS メニューに行き、「環境設定…」を選んでください。次に、「環境設定…」の中の「スイッチ」画面にて、お使いになりたい入力装置を選択します。

単一のスイッチで使う場合： 自動スキャンか逐次スキャンボタンをクリックして、SwitchXS を自動的に設定することができます。自動スキャンは、SwitchXS のオンスクリーン上に自動的にカーソルを移動させ、目的の行、グループ、さらに特定のボタンに来た時スイッチを押すというモードです。逐次スキャンは、スイッチを押すごとに、ハイライトカーソルが行やグループ、ボタンなどを順番に移動し、設定時間内にスイッチを押さなければ、SwitchXS が自動的にその箇所を選びます。また、押し続けた時にカーソルが移動し、離した時に入力されるという反対の方法もあります。その際は、「スイッチを押し続け

た時ステップ操作を繰返す」というチェックボックスを選択して下さい。(ほとんどの方は、ボタンを押した時にカーソルが移動、再度押した時に入力される方法を選択されるでしょう。）次に、「決定」をクリックすれば準備完了です。SwitchXS　環境設定の「スキャン」画面で、さまざまなスキャンスピードやメニューバーのスキャンスピード等を設定することができます。

複数のスイッチで使う場合：　表示されたそれぞれのスイッチやキーの機能をご自身で設定することができます。次に、「決定」をクリックすれば準備完了です。必要ならば、それぞれのスイッチにひとつ以上の機能を割り当てることも可能です。割り当てる機能として、次の４つの中から選択できます。スキャンを開始する「Run（ラン)」、カーソルを次の行やグループもしくは特定のボタンに移動させる「Step（ステップ)」、現在カーソルがある場所、行やグループ、さらに特定のボタンを選ぶ「Select（セレクト)」、そして、スキャンを停止させる「Stop（ストップ)」です。例えば、２つのスイッチを利用する時、１つのスイッチに「ラン」と「ステップ」を、もうひとつのスイッチには「Select」を割り当てると良いのではないでしょうか。また、押し続けた時にカーソルが移動し、離した時に入力されるという反対の方法もあります。その際は、「スイッチを押し続けた時ステップ操作を繰返す」というチェックボックスを選択して下さい。SwitchXS 環境設定の「スキャン」画面で、さまざまなスキャンスピードやメニューバーのスキャンスピード等を設定することができます。

キーを使うときの注意事項：　初期設定では、スイッチインターフェースの代わりに普通のキーボードやキーボードを代替したスイッチインターフェースをお使いの場合、どのキーをスイッチとして使いたいかに関わらす、SwitchXS はすべてのキーをスイッチとして働くように表示します。Mac OS X 10.2 では、チェックマークが付いたキーはすべてスイッチとして動作し、通常のキーボードとしては動作しません。例えば、キーボードを代替したスイッチインターフェースをご利用、しかし場合によっては誰かにキーボードで入力してもらいたい時、ご利用頻度の少ないキーをスイッチとして割り当てた方が良いでしょう。(スイッチとしてどのキーを使うか、ほとんどのキーボードを代替したスイッチインターフェースで、選択可能です。）　Mac OS X 10.3 以降をお使いの場合、普通のキーボードとキーボードを代替したスイッチインターフェース両方を同じコンピュータに接続してあったとしても、SwitchXS は、指定した機器のみからキーを選出しますから、キーボードを代替したスイッチインターフェースで SwitchXS をお使いになりたい場合でも、通常のキーボードはそのまま動作します。しかし、SwitchXS でキーボードをスイッチとして動作させるように設定した場合、全てのキーは通常の動作ができなくなります。

＊記号を正確に入力するために：　入力メニューから「環境設定を表示」へ、Mac OS 標準搭載の日本語入力モジュール「ことえり」をご利用の場合は、「ことえりの環境設定」が表示されます。「英字入力時のキーボード配列」が初期設定では、「U.S.」になっていますが、「British」へ変更して下さい。また、「入力方法の設定」は、「ローマ字入力」を選択して下さい。

さあ、これでスキャンが開始し、各々の設定通りに、文字入力したり、マウスカーソルを移動・クリックの準備が整いました。SwitchXS が起動する前にご利用の機器がコンピュータに繋がっていれば、SwitchXS は皆様のシステムの設定を憶えていますので、すぐにスキャン開始となります。また、コンピュータをログインすると同時に、自動的に SwitchXS を起動するように設定することも可能です。

主な機能

・ マウスとキーボードの完全代替
・ 全ての標準的な Mac OS X と、クラッシック環境のアプリケーション、さらにマルチモニタ環境にも対応
・ 単一または複数のスイッチの使用やさまざまなスキャンの方法、押し続けた時にカーソルが移動し、離した時に入力されるという反対の方法も含めてサポート（すべてのシステム構成を含む）
・ 自動メニュースキャン機能搭載
・スキャンウィンドウが必要な時に画面に現れ、必要のない時は自動的に透明になる「SmartTransparency™（スマートトランスペアレンシー）」機能搭載
・ コマンドキー、キーの無効、修飾キーとの組み合せやマウスクリックとの組み合わせなども操作可能
・ US キーボードや、その他各国のキーボードレイアウトで動作
・ サイズ変更可能な複数のインタラクティブなスキャンパネルを用意
・ スキャンスピードや回数、通常時のマウススピード、ユーザの使用場面に応じたマウススピードの調整等のカスタマイズが可能
・ オーディオキュー音、スピーチキュー音でスキャン移動
・ 様々な入力装置で使用可能
・ LayoutKitchen では、イメージ、テキスト、カラーボタン等多くの高度な機能を使って、ご自身に合わせたスキャンパネルをカスタマイズ可能
・ KeyStrokes3.6 以降と組み合わせて使用すると、SwitchXS は、単語予測機能もご利用可能。この機能により、劇的に楽に、スピードアップして入力可能

必要なコンピュータシステム

SwitchXS は Mac OS X 10.4 以降にて対応します。SwitchXS を動作させる為には、800 x 600 ピクセルの画面解像度が必要です。SwitchXS は、全ての HID 規準 USB ゲームパッドやジョイスティック、キーボード、また全ての HID 規準の USB マウスやトラックボールなどで動作させることができます。さらに SwitchXS は上記機器を代替した全ての USB スイッチインターフェースでもお使い頂けます。

インストール

SwitchXS はディスクイメージ（.dmg 拡張子がついたファイル）、または CD でのご提供です。 SwitchXS をインストールするには、マウントされたディスクまたは CD の中の SwitchXS フォルダをハードディスクにドラッグして下さい。

＊SwitchXS をホームフォルダもしくはアプリケーションフォルダ（推薦）にインストールすることをご提案致します。

ダウンロード版の利用情報設定

SwitchXS をインターネットからダウンロードした場合、SwitchXS は「試用版」で動作します。試用版は 15 日間（連続して 15 日でなくても構いません）の使用で期限切れとなります。期限切れとなれば、SwitchXS は動作設定が保存されなくなり、15 分間以上の使用を拒否する「制限付試用版」で動作します。これらの制限を取り払うには、SwitchXS を利用可能な状態にして下さい。もし、15 日間の試用版が期限切れとなり、それでもなお SwitchXS を評価するのに時間が必要と感じるのなら、switchXS.trial@assistiveware.com に e メールを送り、最短連続 7 日間（当社にメールが届いた時点から数えます。申し訳ございませんが、 e メールは英語、フランス語、ドイツ語のみ対応可能です。）の試用期間延長する試用版コードを取得するようにして下さい。また、制限を全て取り払うには、永久利用コードを取得し、SwitchXS のライセンスを購入するようにして下さい。

利用情報設定の際、利用コードと一緒に、お名前、会社名（該当するのなら）、並びに e メールアドレス（お持ちなら）を入力して下さい。「SwitchXS」メニューから「利用情報へ...」を選び、「利用する」ボタンを押して下さい（図 1 参照）。尚、このメールはオランダのアシスティブ・ウエア社へ送信されます。文字は、すべて半角/英数にて入力して下さい（名前・会社名含む）。オンライン登録済のお知らせは、日本語で返送されます。

図 1　利用情報のウィンドウ

CD 版の利用情報設定

CD 版 SwitchXS をお持ちの場合、そのアプリケーションはすでにユーザ登録が済ませてある可能性があります。その場合、SwitchXS を最初に起動した際、既に入力された永久利用コードとともに利用情報のウィンドウ（図 1 参照)が現れます。ここでは、お名前、会社名（該当するのなら)、並びに e メールアドレス（お持ちなら）のみを入力し、「利用する」ボタンを押してください。もし、利用情報のウィンドウが自動的に現れない、または所定の位置に永久利用コードが表示されない場合、お持ちの CD はまだユーザ登録されていない可能性があります。販売店からの永久利用コードの入力をお願い致します。その場合、上記ダウンロード版の利用情報設定の手順に従って下さい。

利用情報作業を行わない場合、SwitchXS は 15 日間（連続して 15 日でなくても構いません）の「試用版」で動作し、期限切れとなれば「制限付試用版」で動作します。この制限を取り払うには、ダウンロード版同様、SwitchXS を利用可能な状態にして下さい。

機種変更や OS の再インストールなどで、再度 SwitchXS をインストールが必要になった時のために、永久使用コードやユーザ情報は安全な場所に保管しておいて下さい。

ユーザ登録

利用情報作業が終わったら、製品アップデートやバグ取り情報などをお知らせする際に必要なユーザ登録をお願いします。http://www.assistiveware.com/register.html にアクセスをお願い致します。このオンラインフォームには、SwitchXS をさらに進化させる為、いくつかのアンケートもご用意してあります。尚、ここでご入力頂いた情報は外部に漏れることはございません。

単一もしくは複数スイッチの設定方法

この章では、SwitchXSの機能の概観とスキャンスピードとスキャン方法を設定して、ご希望の「スキャン」になるようにご説明します。さらにこの章で説明したことの詳細をお知りになりたい方は、「環境設定」の項をご覧下さい。

入力装置の選択

SwitchXSを起動する前に、USBスイッチインタフェース、ゲームパッドまたはジョイスティックをコンピュータと接続しておくか、もしくは、キーボードを入力装置として使用して下さい。マウスやトラックボール、マウスを代替したスイッチインターフェースなどで動作します。さらにSwitchXSは、上記機器を代替した非占有的USBスイッチインターフェース、ゲームパッド、ジョイスティック、市販のマウス、キーボードでもお使い頂けます。SwitchXSで、ご利用頂ける入力装置は、ウェブサイトでご紹介しています。

SwitchXSの環境設定の中のスイッチでは、スイッチの動作と使用する入力装置を設定し

ます。 いくつかの入力装置では、コンピュータが２つの別々の装置だと認識することがありますので、注意してください。 例えば、キー操作とマウスクリックの両方へ信号を送るスイッチインタフェースへの場合が考えられます。 このような場合、入力装置を選択のポップアップメニューで、どの装置を選択すべきかは、ご利用の装置の機能によります。キーボードやスイッチテーブルがコンピュータにキー機能を設定している入力装置を選択すると、スペース、リターン、タブ等のよく利用されるキーが一覧で確認出来ます。もう一方の入力装置を選択すると、スイッチの機能は、ボタン1、ボタン2などとして一覧で確認出来ます。 多くの入力装置では、実際にその機能は物理的には、存在していない場合、または異なって付番されるコンピュータのボタンとキーの存在があることがございますのでご注意下さい。これはSwitchXSの問題ではなく、現在のところ、ハードウェアの限界です。

単一スイッチ入力の設定方法：自動スキャンと逐次スキャン

単一スイッチ操作をするには、SwitchXS がデフォルトで選択された装置のすべてのスイッチを「表示」するので、ご利用のスイッチインターフェースのどのポートにスイッチを差し込むかを心配する必要はありません。SwitchXS の環境設定で自動スキャン（通常スキャン）もしくは逐次スキャン（押すたびスキャン）のボタンをクリックすれば、自動的に設定できます。自動スキャンは、パネル内のグループ、サブグループ、ボタンへ自動的にスキャン移動しますので、選択したい場所が来たらスイッチを押す方法です。逐次スキャン：グループ、サブグループ、ボタンへスイッチを押すたびにスキャンします。グループ、サブグループ、ボタンで設定された時間、スイッチを押さないと自動的に選択する方法です。もしスイッチを押し続けたとき、逐次スキャン操作を希望であれば、「スイッチを押し続けた時ステップ操作を繰り返す」を選択して下さい。また、不随意にスイッチを押すことがあるようであれば、「短スイッチクリックは無視する」を選択し、時間を設定すれば、その時間以下で押してしまった操作は認識しなくなります。現在のところ、ほとんどの方に自動スキャンをご利用頂いております。「決定」ボタンをクリックし、設定は終了し、ご利用頂けるようになります。

複数スイッチ入力の設定方法：

逐次スキャンもしくは複数スイッチを利用する場合の SwitchXS の設定方法は、環境設定の中の「スイッチ」を選択、さらに入力装置を決定した後に、「すべて消去」をクリックします。一覧表の中から、手動で使用したいボタンかキーを選択して、それらの機能を設定します。各スイッチに１つ以上の機能を割り当てる場合は、ご注意下さい。次の機能からご選択下さい：ラン，スキャンの開始の合図；ステップ，次のグループ、サブグループ、ボタンへ移動；セレクト，移動中のグループ、サブグループ、ボタンを選択；ストップ，スキャンを中止。例えば、よくご利用頂いている２スイッチのセットアップでは、１つのスイッチに「ラン」と「ステップ」を、もう１つのスイッチへ「セレクト」を割り当てます。もしスイッチを押し続けたとき、逐次スキャン操作を希望であれば、「スイッチを押し続けた時ステップ操作を繰り返す」を選択して下さい。「決定」ボタンをクリックし、設定は終了し、ご利用頂けるようになります。

スキャンスピードと動作の設定方法：

単一スイッチスキャンのスピードは、スキャンのその他の設定同様に環境設定の「スキャン」で設定できます。主なスキャンスピードは、「スキャンスピード」のスライダーを移動する、数値を入力する、上下矢印で変更する、のいずれかで設定出来ます。微妙な数値設定で、快適なスキャンリズムに達するたびに、ご希望であれば、徐々にスキャン速度を上げて頂き、快適なスキャン速度になるように調整して下さい。快適なスキャン速度に達するたいに、スキャン速度を上げ、数ヶ月後には、最初のスキャン速度の倍の速さになっているユーザも複数いらっしゃいます。

SwitchXS には、主なスキャンスピードとは別に、２つのスキャンスピードの設定があります。２つとも「スキャンスピード」の速度の割合で、表示しています。「メニューのスキャンスピード」は、アプリケーションメニューをスキャンする時の速度を決定します。「最初のスキャンスピード」は、パネルのグループ，サブグループ，ボタンへ移動する際の速度を決定します。例えば、50%に設定しておけば、最初のグループを選択してから２倍の考える余裕がありますので、最初のグループでどれを選択するのかを決定する際に、緊張を軽減するために、何も設定されていないボタンを追加する必要はありません。

「スキャン回数」では、選択しなかった場合のスキャン回数の設定します。「動作を終了したら自動的にスキャンを開始」を選択したら、スキャンパネルが変更されるたびに、効率良く（スイッチを押して開始ではなく）自動的にスキャンが再開します。

スキャン入力初心者の方のためのスキャン機能：

グループ，サブグループとスキャンすることが、スイッチユーザにとって効率的である一方、初心者の方にとっては、混乱することがあります。SwitchXS では、スキャン方法に慣れて頂くために、オプションメニューで「簡易スキャン」を設定してあります。「グループなしでスキャン」は、グループ、サブグループなしで、ボタンを移動します。「サブグループなしでスキャン」は、グループ（通常、一列・行）ごとにスキャンをしますが、サブグループはスキャンせず、ボタンを移動します。つまり、グループからボタンへとスキャンします。初心者のスイッチユーザは、簡易スキャン機能でパネル操作になれて、徐々にグループ，サブグループ、ボタンへの通常のスキャン方法へ移行することも可能です。簡易スキャンを中止するには、再度、オプションの簡易スキャンから「グループなしでスキャン」もしくは「サブグループなしでスキャン」を選択して通常のスキャンになります。

スキャンウィンドウの使い方

基礎

下記のスキャンウィンドウは SwitchXS の基本となるウィンドウです（図２参照）。他のアプリケーションウィンドウが開いている場合でも、SwitchXS のウィンドウは再前面にて常時動作しています。（フルスクリーンモードで実行するアプリケーションを除きます。詳細は「不具合情報」の項を参照して下さい。）「パネル」メニューに表示された中から目的にあったスキャンパネルを選択して頂けます。名前の後に「＋」記号がついたスキャンパネルには、どのパネルにも最下行に他のパネルに素早くアクセスするためボタンがありま

す。「Mouse and Keyboard1+」のパネルにはこれに加えて、最後の行にいくつか他の機能を配置してあります。スキャンパネルにはキーボードの機能のみのものや、マウスの機能のみのもの、またマウスとキーボード両方の機能をを果たすものがあります。マウスとキーボード両方の機能をを果たすパネルには、キーボード機能が上にあるものと、マウス機能が上にあるものの 2 つのバージョンがあります。LayoutKitchen を用いて、皆様ご自身でパネルのデザインができます。

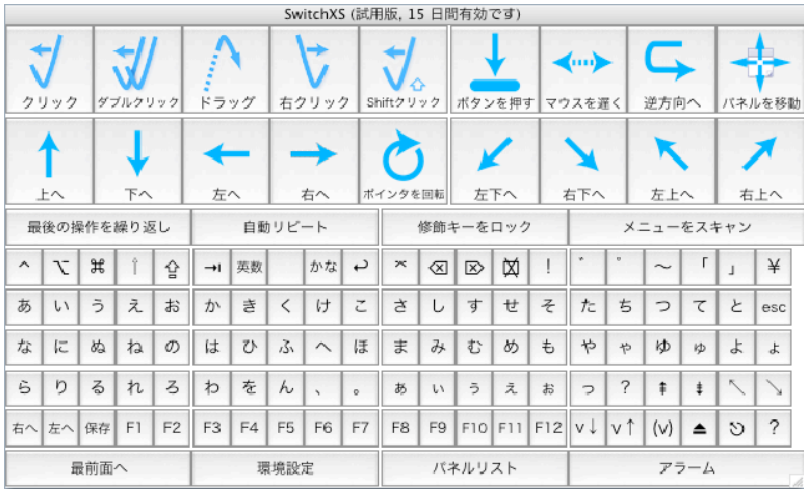

図 2　Mouse and Keyboard1+パネルのスキャンウィンドウ

ウィンドウの右下端を引っぱることによって、スキャンウィンドウの大きさを好きなように変えることができます。SwitchXS の中の「一般（環境設定）」では、スキャンパネルの各々のパネル位置やサイズを記憶させるかどうかを設定することも可能です。

環境設定の「一般」で「各々のアプリケーションに最後に使用したパネルを記憶」を選択すると、SwitchXS は、使用したソフトウエアで最後に利用したパネルを記憶しておき、再度、そのソフトウエアを起動すると自動的にそのパネルを呼び出します。各アプリケーションに異なったパネルを使用したい場合は、アプリケーションを変更するたびに、自動的にご利用になりたいパネルを呼び出しますので、大変効率よくなります。つまり、各々のアプリケーションへ透明 SwitchXS を「添付」しているのです。

マウスボタン

マウスボタンは、クリック、ダブルクリック、ドラッグ、右クリック、修飾キーとクリックの組み合わせ（例、Option クリック、Shift クリック）など、多くの機能があります。また、マウスボタンを使って、マウスカーソルを様々な方向に移動できます。ご注意頂きたいのは次の 6 つのボタンです。

図 3. 「Mouse Complete+」パネルのスキャンウィンドウ

「ドラッグ」ボタンは、一度押されると、次に押すまで押されたままの状態になります。ドラッグしたいときは、まずマウスカーソルを自分がドラッグを開始したい場所に移動します。次にドラッグボタンを押すと、それが押されたままの状態になります。そして、方向ボタンを使ってマウスカーソルをドラッグ終了位置まで移動し、再度ドラッグボタンを押し、一連の操作を終了して下さい。

「ボタンを押す」ボタンも一度押されると、次に押すまで押されたままの状態になりますが、こちらは「ドラッグ」するのではなく、マウスボタンを押したままにしたい時に使用します。ドロー機能が必要なソフトウエアや Dock の中のメニューにアクセスしたい時にご利用頂けます。

「マウスを遅く」ボタンは、マウスカーソルを目的の位置まで後少しの際、通常に比べてゆっくり移動させたい時に使用します。速度については「マウス（環境設定）」の設定によって決定して下さい（詳細は「環境設定」の項を参照）。

「逆方向へ」ボタンもマウスカーソルはゆっくりとなりますが、こちらを選択するとこれまで移動していた方向とは逆の方向へ移動します。このボタンは、通常のスピードで移動していてマウスカーソルが、目的の位置からちょっと行き過ぎて、少し戻したいというときに便利です。

「パネルを移動」ボタンを使えば、簡単にスキャンパネルの位置を移動できます。このボタンを選択すると回転する矢印がスキャンウィンドウ中央に現れ、次にスイッチを押すとその矢印の方向にウィンドウが移動し、もう一度スイッチを押すとパネルの位置が決定されます。

「ポインタを回転」ボタンはマウスカーソルを任意の方向に移動する場合に使用します。このボタンを選択するとマウスカーソルを中心に回転する直線が現れ、次にスイッチを押すとその線の方向にマウスカーソルが移動、もう一度スイッチを押すカーソルの位置が決定されます。

ご注意：　キーボード代替用スキャンパネルの場合、パネルのボタンをマウスでクリックすることによってキーを入力するのと同じ結果が得られますが、マウス代替用パネルの場合、信号に矛盾が生じるために、パネルのボタンをクリックしてもマウス操作は致しません。

キー

マウスを代替するパネルには説明ラベルがありますので比較的ご利用しやすいかと思いますが、キーボードを代替するパネルには予めその意味をご理解頂く必要があるキーもございます。

図 4. 「Keyboard1+」パネルのスキャンウインドウ

キーは､基本的にアップルのインターナショナルキーボードに使用されている記号を採用していますが、皆様が慣れ親しんでいるわけではないかと思います。図４はキーボードを代替しているパネルです。このパネルの最初の行は「特殊」記号のボタンが配置されています。左から順に、control、option/alt、command/apple、shift、caps lock、tab、英数、space、カナ/かな、return、enter、backspace、forward delete、num lock/erase です。 最初の行の残りのボタンは単純明解な記号です。パネル４行目の４つめのサブグループには、「？」ボタンと共に「ページを上へ」ボタン、「ページを下へ」ボタン、「home」ボタン、そして「end」 ボタンがあります。最下行５行目には、「右へ」のボタンには shift+→キーが、「左へ」のボタンには shift+←キーが設定されています。かな漢字変換時にご利用頂くのに便利です。
「保存」、ファンクションキー、「volume down」ボタン、「volume up」ボタン、「mute」ボタン、「eject ボタン」、「escape」ボタン、そして最後の「？」は 「ヘルプ」ボタンが配置されています。アップルのインターナショナルキーボードに使われている記号をはじめてご覧になった方々は慣れるのに少し時間がかかるかもしれませんが、すぐにご利用いただけるようになることと思います。

また、日本語の濁音・半濁音を入力したい時は、各々「゛」・「゜」を先に選択すると、別のスキャンウィンドウが表示され、濁音・半濁音の文字が表示されます。

その他の文字、記号、強調印字を入力する時の多くは、caps lock、shift、option/alt を同時に押しています（もしくは、修飾キーとの組み合わせです）。control や command/apple などと同様に、これらの特殊キーは、一度押されると再び同じキーを押すまで（または「環境設定」で「修飾キーの自動消去」が選択されている場合は、通常の文字キーを押すまで）押されたままの状態になります。（詳細は「環境設定」の項を参照）

キーボードを代替するパネルのボタンを普通のマウス（またはマウスを代替するポインティングデバイス）でクリックすることによっても、文字入力は可能です。マウスやトラックボールなどのポインティングデバイスをご利用で、より効率の良い入力方法をお求め

の方は、当社が開発した「KeyStrokes」というソフトウェアがお勧めです。KeyStrokes は、ワード予測や文節予測など、時間と労力を節約する先進の機能を満載し、マウスを使って入力するという「クリックタイピング」に機能を特化したオンスクリーンキーボードです（KeyStroke の日本語版は未発売です）。

特殊ボタン

いくつかのスキャンパネルには、特殊ボタンの行があります（図 2 参照）。この行には、最後の操作や、最後から２番目の操作を繰り返すためのボタン、自動リピートのあり/なし、修飾キーのロック（一文字入力する時に必要な shift、control、command/apple、option 等の修飾キー）、メニューをスキャンさせるボタンなどがあります。メニューをスキャンさせるためには、「ユニバーサルアクセス（システム環境設定…）」の中にある「補助装置にアクセスできるようにする」を選択する必要があります。この設定を行うためには、アップルメニューから「システム環境設定…」へ、次に「ユニバーサルアクセス」を選択して、「補助装置にアクセスできるようにする」チェックボックスにチェックをして下さい。ユーザー認証のため、

「“システム環境設定”に変更を加えるには、あなたのパスワードを入力してください。」と表示されますので、「名前」「パスワード」を入力して下さい。

ゲームソフトで遊ぶことに有効なボタンのみを持つパネルに「Game+」があります。「カーソルの跳返り停止」「カーソルの移動停止」という名称の２つの特殊ボタンも含まれています。
跳返り停止ボタンには、スクリーンの端迄来た時に、跳返りしないようにする操作が設定してあります。ゲームの中には、360 度の回転をさせたり、跳返り中のカーソルを停止させる別のトリックがあるものもあるからです。移動停止ボタンには、見えているカーソルの位置は動かさずに、ゲーム用のマウスの動きの方向を示すことができるように設定してあります。またこの機能はゲームとの互換性を高め、360 度の回転させるような場面でも適応出来るようにしています。移動停止ボタンが有効であれば「カーソルの跳返り停止」のオプションより少ない面の効果があるので、こちらをお勧めします。ゲームを終了した時、これらのオプションをオフにすることを忘れないで下さい。

その他には、特殊なボタンがあるウエブブラウジングを簡単にした Safari パネルとよく利用する機能へ迅速にアクセス可能にしている iTunes パネルです。iTunes パネルでは、LayoutKitchen のカスタマイズ機能を充分に活かしたパネルの事例です。

マウスカーソルの移動

SwitchXS はマウスカーソルを移動するための先進的な操作方法を実現化しています。SwitchXS の「マウス（環境設定…）」の中ではマウスカーソルの動きそのものを細かく設定でき（「マウス」の項を参照）、さらに、「一般設定（環境設定…）」（「一般設定」の項を参照）にも、ご自身に合わせた設定ができ□ る項目がございます。

マウスカーソルの移動開始方法

マウスカーソルの移動を開始するには３つの方法があります。

(1) 方向ボタンを使って、上下左右と斜め４方向に移動する方法
(2)「マウスを遅く」ボタンや「逆方向へ」ボタンを使って、ゆっくりとしたスピードで移動したり、直前の操作と反対方向に移動し、最後に調整する方法
(3)「ポインタを回転」ボタンを使って、任意の方向に移動する方法

方向ボタンの操作は簡単にご理解頂けると思います。ひとつのボタンを選択すれば、その方向にマウスカーソルが移動し始めます。

「マウスを遅く」ボタンや「逆方向へ」ボタンの操作も簡単だと思います。ひとつのボタンを選択すれば、直前に移動していた方向や、その反対方向にマウスカーソルが再び移動し始めます。これらのボタンは、マウスカーソルを細かく移動したいときや、「逆方向へ」ボタンの場合は通常のスピードで移動してきたマウスカーソルが目的の場所を少し行き過ぎて、戻したいというときに便利です。SwitchXS 環境設定の中にある「マウス」で、「マウスを遅く」ボタンや「逆方向へ」ボタンが選択されたときのマウスカーソルのスピードを、通常のスピードに対するパーセンテージで設定します。

「ポインタを回転」ボタンを使うと、マウスカーソルを 1 回の操作で画面上のどこにでも移動できて便利です。このボタンを選択すると、現在マウスカーソルがある場所を中心として、画面全体を回転する直線が現れます。画面上の目的の位置をその直線が通過する時にスイッチを押すと、その線の方向にマウスカーソルが移動します。マウスカーソルが目的の位置に来たとき、再度スイッチを押すと止まります。SwitchXS 環境設定の中にある「回転速度（マウス)」で、この直線が 360 度回転するために要する時間を設定できます。この時間が長ければ長いほど、直線はゆっくりと回転します。回転する直線の色やサイズも変更できます。

マウスカーソルの制御

SwitchXS 環境設定の中にある「マウス」では（「環境設定」の項を参照)、通常のマウスカーソルが画面を移動するスピードや、「マウスを遅く」や「逆方向へ」ボタンが選択されたときのマウスカーソルのスピードを設定することができます。

SwitchXS 環境設定の中にある「マウス」では、各種マウスボタンが選択されてから「カーソルの動きの前に遅れを付ける」こともできます。これにはいくつかの利便性があります。ボタンを選択してから少しの時間をおけば、マウスカーソルの移動前に、その位置に気持ちを集中させることができます。つまり、マウスカーソルが動き始める前に、次にそれを止めるためにスイッチを押す準備ができますから、ほんの少しだけマウスカーソルを動かしたいときには便利です。また、「マウス速度を遅く」オプションとともにこの待ち時間を設定すれば、この待ち時間にもう一度スイッチを押すと「マウス速度を遅く」のキーを選択した同じモードでカーソルが移動します。すなわちこの設定だと、(マウスではなく)スイッチをダブルクリックすればス「マウスを遅く」のモードに入るということになり、カーソルを移動したい距離に応じてその都度スピードを変えることができます。

マウスカーソルを正確に移動するために、SwitchXS 環境設定の中にある「マウス」では更に 2 つのオプションを用意しています。「徐々にスピードアップ」は、マウスカーソルを移動開始直後から設定された速度で移動するのではなく、段階的に速くする機能です。目的の位置まで離れている場所へマウスを移動することが多く、細かな動きが少ない場合にはよりスピードアップした設定をご利用頂けます。当然ではありますが、細かな動きをする上でも正確に動作は致します。「マウス速度を遅く」は、別の方法で効率的で正確なマウスカーソルの移動をサポートします。このオプションを選択すると、マウスカーソルは最初通常のスピードで移動、目的の位置に近づいてきた時スイッチを押すと、自動的にマウスカーソルを「マウスを遅く」で設定された速度に変更して、正確に目的の位置でカーソルを止めることができます。上記の、「カーソルの動きの前に遅れを付ける」設定と組み合わせれば、理想的なマウス操作環境が実現できます。尚、「徐々にスピードアップ」と「マウス速度を遅く」の設定の併用は出来ませんので注意が必要です。

マウスカーソルは画面の端まで来ると跳ね返り、移動してきた進路に沿って帰って行きます。もしマウスカーソルが目的の位置を通り過ぎたとしても、スイッチを押してカーソルを止める必要はなく、端にぶつかって戻ってくるのを待てば良いのです。

「SmartTransparency™（スマートトランスペアレンシー）」の使用

「SmartTransparency™」は当社 AssistiveWare が開発した、スキャンウィンドウが必要な時に画面に現れ、必要のない時は自動的に透明になっていくという技術です。

初期設定では、「SmartTransparency™」はオフになっています。この機能は、「環境設定」の中の設定を変更することにより、いつでもオンにすることができます。（詳細は「SmartTransparency™（環境設定）」の項を参照）。

「SmartTransparency™」を使うと、スキャンウィンドウが使用されていない時は自動的に透明になり、またスイッチを押すと現れて、使用可能になります。スキャンウィンドウが突然に表示・非表示するするのを好まない方には、徐々に非表示なるように設定できる機能もあります。スキャンが終了すると、そのウィンドウは全透明または半透明になります。

SmartTransparency™をオンにして、スイッチを利用せず、マウスやトラックボールを使ってスキャンウィンドウの背面にあるウィンドウやオブジェクトをクリックしたい場合、「パネル非表示時の透明度」の設定を 100%にして下さい。スキャンウィンドウが半透明になっていると、背面のオブジェクト等をクリックしようとしても、実際にはスキャンウィンドウ中のオブジェクト（ボタン）等をクリックしていることになります。

スイッチユーザが右下のサイズボックスをドラッグすることによって、スキャンウィンドウのサイズ変更するには、SmartTransparency™をオフにする必要があります。また、スキャンウィンドウのサイズボックスを正しくクリックする必要があります。

「SmartTransparency™」の各種設定は、「環境設定…」で変更することができます。（詳細は「環境設定」の項を参照）。

スキャンパネルのカスタマイズ

SwitchXSにはLayoutKitchen ®が付属しております、それは、ユーザご自身がにスキャンパネルを作成できるエディタです。LayoutKitchenを利用して、テキストマクロやAppleスクリプトなどの多くの高度な特徴があるパネルをカスタマイズ可能です。 テキスト、ボタンの特性、色など、ボタンに関するイメージを設定ことによって、よりご利用される方に合わせたボタンを作成する事が出来ます。既存のパネルから新規パネルへボタンをコピーするか、またはドラッグすることによって、より簡単にLayoutKitchenでパネルをカスタマイズ可能です。詳しくは、LayoutKitchen PDFマニュアルをご覧下さい。

単語予測機能の利用

単語予測においては、SwitchXS は KeyStrokes3.6 以降と組み合わせて、使用可能になります。(日本語未対応。)
(KeyStrokes の詳しい情報に関しては、メーカーウエブサイトをご覧下さい。)この機能により、劇的に楽に、スピードアップして入力可能となります。
SwitchXS において、単語予測機能を利用するためには、KeyStrokes の設定を行う必要があります。 KeyStrokes を起動し、次に、KeyStrokes メニューに行って、Configuration Wizard を選択します。すると、 SwitchXS で入力する際は、KeyStroke の予測機能を利用することが可能です。 KeyStrokes の予測ウィンドウでは、候補数を決定します。SwitchXS 上で、スキャンパネルを選択する時は、名前の最後に「-KS」が明記されているパネルを選択します。パネルは、s1、s2、s3 などのボタンの列を持っています。 KeyStrokes 予測ウインドウを表示するには、スキャンパネル上で、これらのボタンを選択します。尚、KeyStrokes スキャンパネルへアクセスするのに、スイッチを利用する場合、マウスボタン上でクリックをしても、そのボタンの機能の操作は致しません。ローマ字アルファベットをマウスでご利用の場合は、KeyStrokes をご利用頂き、SwitchXS は必要ございません。また、KeyStrokes は、多くの言語に対応しておりますが、現在日本語と中国語には、未対応です。 KeyStrokes の書類については、KeyStrokes のマニュアルをご覧下さい。マニュアルでは、自動入力や単語予測に関する基礎とその他の役立つ情報も掲載されています。

音声、コミュニケーションのためのSwitchXS

SwitchXSは、スキャンしている間、音声をフィードバックする機能があります。(詳細は「環境設定」の項を参照)) LayoutKitchenでパネルを作成する際に、「メッセージ(話す)」で設定できます。デフォルトで、SwitchXSは「環境設定」の「音声」でMac OSX内蔵の声を使用しています。SwitchXSは、音声機能を強化するには２つのソフトウエアがございます。: Proloquoとドキュメントーカ(クリエートシステム開発株式会社製)

SwitchXSが、Proloquoと一緒に利用される場合、音声、コミュニケーションソフトウエアとして認識されます。多くの異なった言語(購入される言語によります)が、非常に良く、自然に聞こえ、音声の調律や速度(スキャンスピードに合わせて、より良い音声を設定)を変更することによりさらに調整を可能にしています。Proloquoは、どのアプリケーションに入力した文字もテキスト読みが可能で、SwitchXSと一緒に利用することにより高品質のスイッチアクセス可能な拡大・代替コミュニケーション(AAC)としてご利用頂けます。詳しくは、Webサイトにて、Proloquoのデモンストレーション、Proloquo利用者のマニュアルをダウンロードして下さい。

日本の皆様はSwitchXSをドキュメントトカーカと一緒にご利用出来ます。

環境設定

環境設定画面へ

SwitchXS の環境設定画面へアクセスするには 2 つの方法があります。

（1） SwitchXS アプリケーションが前面にあるとき、 「SwitchXS」メニューから「環境設定…」を選択します。注意：SwitchXS を前面にするには、Dock の中の「SwitchXS」アイコンをクリックするか、既定のパネルの中の「最前面へ」ボタンをお使い下さい。

（2） その他に、既定のパネルの下部の「環境設定」ボタンをクリックすることによっても環境設定画面を呼び出すことができます。こうすると、SwitchXS が手前に来て環境設定ダイアログが表示されます。

SwitchXS には、次の 7 つの環境設定パネルがあります。一般、スイッチ、スキャン、キーボード、マウス、音声、そして SmartTransparency™です。

一般

SwitchXS の自動起動を選択すると、コンピュータにログインした際、SwitchXS を自動的に起動させることができます。現段階では、ログインウィンドウで、名前やパスワードを SwitchXS を利用し入力することはできませんので、通常のキーボードをご利用になれない場合、コンピュータ起動時に自動ログインするように設定する必要があります。この設定を行うには、まずアップルメニューから「システム環境設定…」を選択、次に「アカウント」を選択し、「自動ログインのアカウント（ログインオプション）」を選択します。

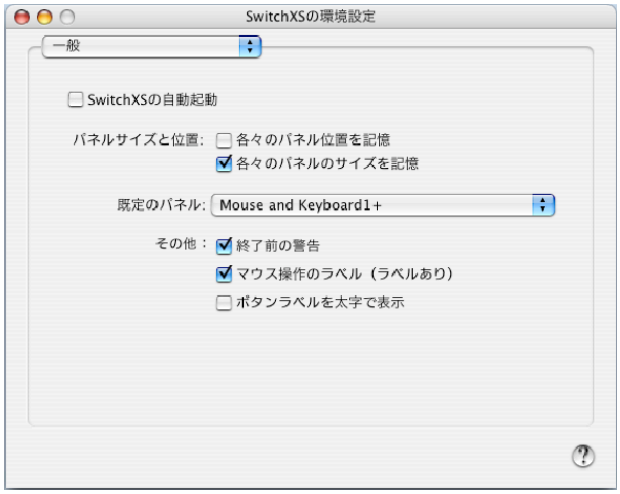

図 5. 一般（環境設定…）

各々のパネル位置を記憶が選択されていると、SwitchXS は各々のパネルの位置を記憶します。選択されていない場合は、新たに表示したパネルは直前に表示したパネルと同じ位置に表示されます。

各々のパネルのサイズを記憶が選択されていると、SwitchXS は各々のパネルの大きさを記憶します。選択されていない場合は、新たに表示したパネルは直前に表示したパネルと同じ大きさで表示されます。

既定のパネルは、「既定のパネルへ」ボタンを押した時に出したいパネルを選択します。

使用したソフトウエアで最後に利用したパネルを記憶しておき、再度、そのソフトウエアを起動すると自動的にそのパネルを呼び出します。

その他：終了前の警告は、SwitchXS メニューからの SwitchXS を終了、再起動、ログアウト、システム終了など SwitchXS が終了をする時に自動的に確認のダイアログを表示します。なんらかの理由で SwitchXS を終了してはならない場合、この確認ダイアログが不意な終了を防ぎます。例えば、他のアプリケーションで保存しなければならないドキュメントがあり、操作を続ける必要がある時などです。

その他：マウス操作のラベル（ラベルあり）は、スキャンパネルのボタンに、ラベルも表示させたいときに選択します。

その他：ボタンラベルを太字で表示は、スキャンパネルのラベルを太字で表示したいときに選択します。

スイッチ

入力装置を選択は、SwitchXS を起動する前にコンピュータに接続した USB ゲームパッド、ジョイスティック、キーボード、またはそれらを代替するスイッチインターフェースを、全て表示します。ここでスイッチとしてお使いになりたい装置を選択して下さい。

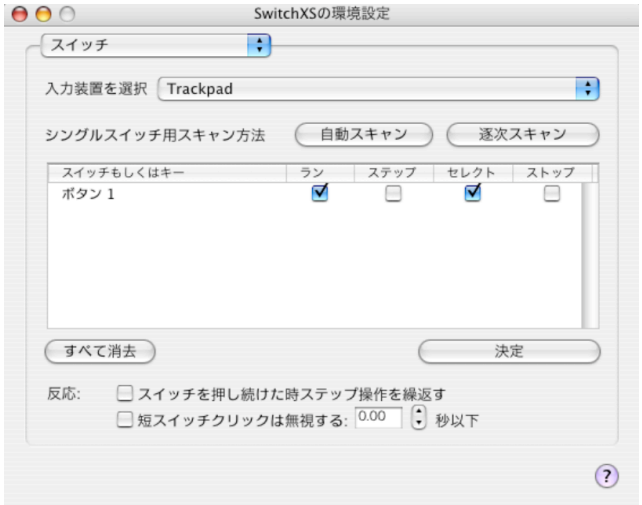

図 6.スイッチ（環境設定…）

自動スキャンは、単一スイッチで SwitchXS をご利用になる場合、設定されたスピードで自動的に行、グループもしくはボタンと、ハイライトカーソルを移動させたいときに使います。ハイライトカーソルは自動的に移動するので、自分が必要とする行、グループもしくはボタンにハイライトカーソルが来た時にスイッチを押すだけです。

逐次スキャンは、単一スイッチで SwitchXS をお使いになる場合、スイッチを押すごとに、ハイライトカーソルがグループやサブグループ、もしくはボタンなどを順番に移動し、設定時間内にスイッチを押さなければ、SwitchXS が自動的に、その時点でカーソルがあるグループ、サブグループ、ボタンを選択します。つまり自分が希望するグループ、サブグループもしくはボタンにハイライトカーソルを移動させ、SwitchXS が自動的に選択するのを待ちます。

スイッチの表は、各々のスイッチやキーの機能を割り当てる時に使用します。複数のスイッチをご利用になる場合、これは非常に重要です。また、通常のキーボード、キーボードを代替した装置をスイッチとしてお使いになる場合、通常のキーボード上でも入力したいので、SwitchXS での割当をしたくないキーを除くことが出来、有効にご利用頂けます。さらに、ひとつのキーに複数の機能を割り当てることも可能です。割り当てられる機能は以下の 4 つです。スキャンを始める「Run（ラン）」、次の行、グループもしくはボタンにハイライトカーソルを移動させる「Step（ステップ）」、現在ハイライトカーソルがある行、グループもしくはボタンを選択する「Select（セレクト）」、スキャニングを止める「Stop（ストップ）」です。例として、典型的なスイッチ 2 個の環境では、ひとつのスイッチを「Run（ラン）」と「Step（ステップ）」に、もうひとつのスイッチを「Select（セレクト）」に設定すると効率よくお使い頂けています。

すべて消去は、スイッチの表のチェックボックスからすべてのチェックを外します。選択したいキーのみチェックボックスをクリックし、再度選択することができます。

決定は、上記設定を適用するために使用します。このボタンが選択されるまで、上記一連の新たな設定は操作に反映されません。

動作:「スイッチを押し続けた時ステップ操作を繰返す」を選択すると、押し続けた時にカーソルが移動し、離した時に入力されるという通常とは、反対の選択方法になります。

動作:「短スイッチクリックは無視する」を選択すると、秒設定時間より短いクリックは無視します。

スキャン

スキャンスピードは、自動的にハイライトカーソルをグループからグループ、サブグループからサブグループもしくはボタンからボタンに移動させる速度を設定することです。また単一スイッチで自動スキャンをご利用の場合、スキャンスピードは、ハイライトカーソルを移動させて、SwitchXS が自動的に次のグループ、サブグループもしくはボタンを選ぶまでの待機時間を設定することになります。

メニューのスキャンスピードは、ハイライトカーソルがメニューバーを自動的に移動する

速度を設定します。これは、スキャンスピードに対するパーセンテージで表されます。メニューバーには、多くの情報があり、目で追うのにも時間を要するため、メニューのスキャンスピードは 100％より少なくする（ゆっくりする）のが一般的です。

最初のスキャンスピードを選択していると、SwitchXS はスキャンを開始した最初の行、グループもしくはボタンのハイライト時間を、通常のハイライト時間より長くします。随意的に
スイッチが押せなくて、最初の行、グループもしくはボタンを選択するのが困難な方には、この設定は大変便利です。例えばこの設定が 50%になっていれば、最初の行、グループもしくはボタンがハイライトされる時間は、その後のハイライト時間に比べて 2 倍になります。

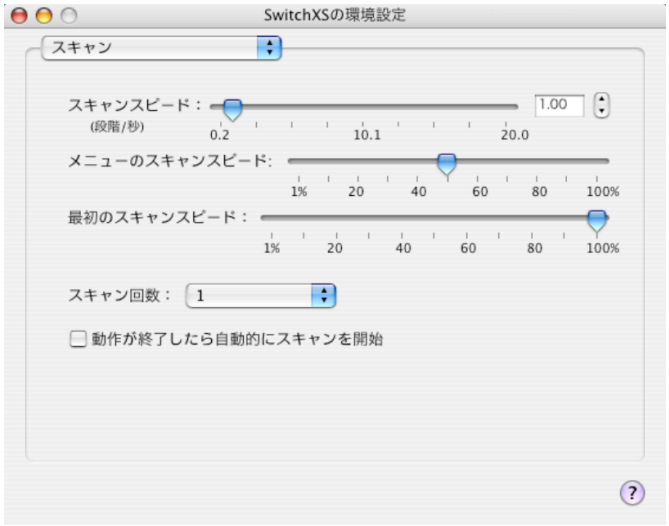

図 7.スキャン（環境設定…）

スキャン回数は、ハイライトカーソルが動いていても何も選択されなかった場合、SwitchXS が何回スキャンを繰り返した後にスキャンを止めるかを設定します。

動作が終了したら自動的にスキャンを開始を選択していると、スキャンパネル中の 1 つのボタンを選択した後、次にスキャンを開始するためにスイッチを押す必要がなくなります。例えば、文章を作成する際、文字のボタンを選択したら、次の文字を入力するためには、SwitchXS が自動的にスキャンを再開してくれますので、スキャン開始操作は、最初に文字を入力する時のみ行えばよいのです。選択しない場合は、自動的にスキャンが止まります。

キーボード

キーのリピート：キー、テキスト、マクロボタンの自動リピートは、キーリピート（キーを一定時間押し続けたときに、同じ文字が連続して入力される機能）を使いたいときに選択します。「自動リピート」ボタンがあるスキャンパネル上でも直接変更できます。またこの機能はスイッチを使うことを前提に設計されており、マウスでクリック入力をしている場合は、この機能は使用できません。クリック入力をご希望される場合は KeyStrokes をご使用下さい（KeyStroke の日本語版は未発売です）。

キーのリピート：スイッチを押した間リピートは、文字やテキスト、マクロボタンなどをスイッチを設定時間より長く押し続けた時、その間キーのリピートをします。この機能は、文章を作成するときなどに最適です。選択するには、「自動リピート」機能も選択されていなければなりません。

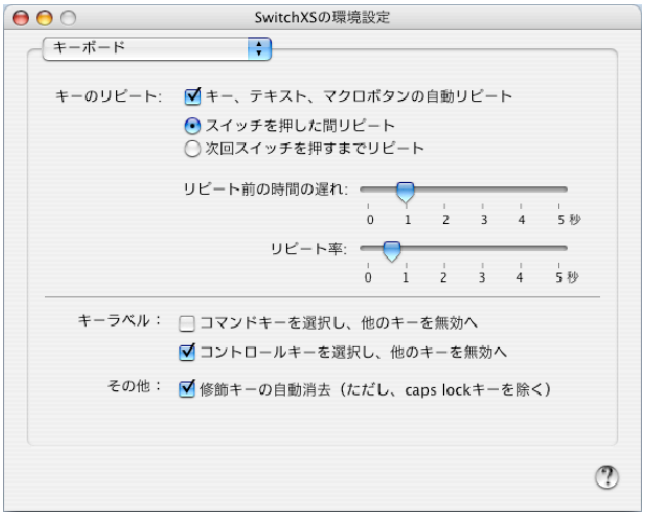

図 8.キーボード（環境設定…）

キーのリピート：次回スイッチを押すまでリピートは、文字やテキスト、マクロボタンなどを
スイッチを押した後、キーのリピートが始まる機能です。キーリピートは、次にスイッチを押すまで続きます。ゲームなど、キーを長く押し続けなくてはならないとき、またスイッチを長く押し続けることが困難な場合に最適です。選択するには、「自動リピート」機能も選択されていなければなりません。

キーのリピート：リピート前の時間の遅れは、キーのリピートが起こるまでに少し時間を置きます。長い時間を設定しておけば、誤ってスイッチを通常より少し長く押してしまった場合でも、不意なキーのリピートを防ぐことができます。

キーのリピート：リピート率は、お好みのリピートの速度を設定します。ここで低い値を設定すると速くリピートし、高い値を設定するとゆっくりとリピートします。

キーラベル：コマンドキーを選択し、他のキーを無効へは、アルファベットキーボードの時のみ有効です。日本語キーボードでは、対応していません。command ボタンが押されている時は、キーのラベル表示を変更しないように設定出来ます。この機能は、たとえば command キーと option キーを同時に押して何か文字を打ちたいけれども、パネルのボタンは option ボタンが押されていない時の表示にしたい時に、選択すると便利です。

キーラベル：コントロールキーを選択し、他のキーを無効へは、アルファベットキーボードの時のみ有効です。日本語キーボードでは、対応していません。control ボタンが押されている時は、キーのラベル表示を変更しないように設定出来ます。この機能は、たとえば control キーと option キーを同時に押して何か文字を打ちたいけれども、パネルのボタンは control ボタンと option ボタン両方が押された時の表示（ほぼ空白）ではなく、普通の

表示のままにしたいとき、選択すると便利です。

その他：修飾キーの自動消去（ただし、caps lock キーを除く）オプションは、command/apple キー、option キー、 shift キーなどの修飾キーを押した後、文字キーをひとつ押した時、修飾キーを自動的に無効にしたい場合に設定して下さい。この機能を選択していると、例えば大文字をひとつだけ入力したいとき、次にシフトキーを無効にする必要がなくなり便利です。スキャンパネルには、この機能をその都度、無効/有効にする「修飾キーをロック」というボタンがあるものもあります。このボタンは、場面に応じて、自動的に修飾キーを無効、有効が決定でき便利です。

マウス

マウススピードは、マウスカーソル用ボタンが選択されたときの、マウスカーソルが移動するスピードを設定します。

逆方向時のマウススピードの比較率は、「マウスを遅く」や「逆方向へ」ボタンが選択されたときのマウススピードを、マウススピードに対するパーセンテージで設定します。通常は 50％以下に設定しておくことをお勧めします。

カーソルの動きの前に遅れを付けるには、いくつかの利便性があります。ボタンを選択してから少しの時間をおけば、マウスカーソルの移動前に、その位置に気持ちを集中させることができます。つまり、マウスカーソルが動き始める前に、次にそれを止めるためにスイッチを押す準備ができますから、ほんの少しだけマウスカーソルを動かしたいときには便利です。また、「マウス速度を遅く」オプションとともにこの待ち時間を設定すれば、待ち時間の間にもう一度スイッチを押すと「マウスを遅く」のキーを選択した同じモードでカーソルが移動します。

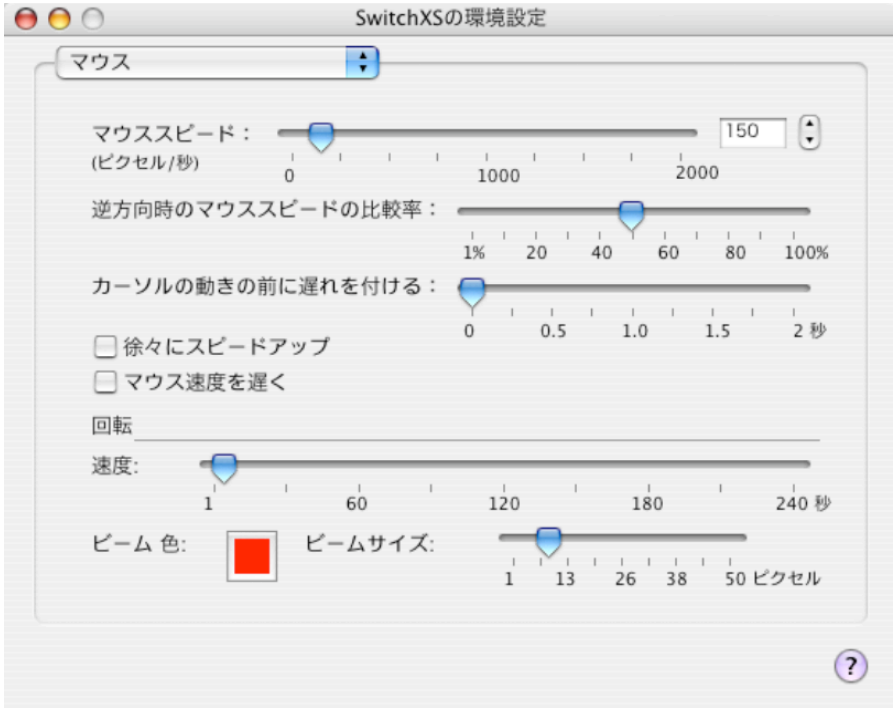

図 9.マウス（環境設定…）

徐々にスピードアップは、マウスカーソルを移動開始直後から設定された速度で移動するのではなく、段階的に速くする機能です。目的の位置まで離れている場所へマウスを移動することが多く、細かな動きが少ない場合に便利な機能です。尚、「徐々にスピードアップ」と「マウス速度を遅く」の設定の併用は出来ませんので注意が必要です。

マウス速度を遅くは、マウスカーソルが移動している間にスイッチを押すとマウススピードが遅くなる機能です。マウスカーソルは最初通常のスピードで移動、目的の位置に近づいてきた時スイッチを押すと、自動的に「マウス速度を遅く」で設定された速度に変更して、正確に目的の位置でカーソルを止めることができます。

回転速度では、矢印や（ビーム）直線が 360 度ひとまわり回転するまでにかかる時間を設定します。この設定はパネルを移動する時や任意の方向にマウスカーソルを移動する時に適用されます。

ビーム 色では、ポインタが回転する時の色、パネルを移動する時の矢印の色を設定します。

ビームでは、ポインタが回転する時のビーム（直線）の幅を設定します。

音声

アラーム音は、スキャンパネルの中にあるアラームボタンが押されたされた時に鳴らす音を選択します。

キュー音では、スキャンをする度に鳴らす音を選択します。

スイッチ音は、スイッチを押す度に鳴らす音を設定します。

マウスクリックの音声フィードバックは、スキャンパネル中のマウスボタン使用時に、クリック音を鳴らす時に選択します。

図 10.音声（環境設定…）

スピーチフィードバックは、スキャン中の操作に対して、「ボタン、サブグループ、グループ」の全てにおいて、合成音声をフィードバックさせる、または「ボタンのみ」で合成音声をフィードバックさせるかを設定します。このオプションが選択されていると、コンピュータの「システム環境設定…」の中の「デフォルトの声（スピーチ）」画面で設定されたデフォルト値を使用して、スキャン中の操作に対して合成音声のフィードバックをします。合成音声がスキャンスピードに遅れをとる場合がございますので、このオプションを選択する時は「スキャンスピード」をゆっくりに設定されることをお勧めします。尚、「デフォルトの声（スピーチ）」の言語において日本語を選択出来ないため、スピーチフィードバックを選択しても、日本語の読上げは致しません。もし、より高品質な音声、他国の言語の音声フィードバック、調整をご希望であれば、Proloquo と一緒に音声、コミュニケーションソフトウエアとして、SwitchXS をご利用下さい。日本語音声は、ドキュメントトーカと一緒に SwitchXS をご利用下さい。

ボリュームは、システムサウンドの主音量に対して、SwitchXS が出す音のボリュームを設定します。ここで 100％にしても、なお小さいと感じる場合、ボリュームキー、または「システム環境設定…」の中の「サウンド」にて、システムサウンド主音量を上げて下さい。

「SmartTransparency™（スマートトランスペアレンシー）」

SmartTransparency™は、SmartTransparency™の表示/非表示を決定します。また、スキャンウィンドウの透明度を設定できます。

パネルの非表示までの時間は、スキャン終了後、スキャンウィンドウを透明にし始める時間を設定します。繰り返しスキャンする場合、非表示までの時間を長く設定すると、画面の散らつきを防ぎます。

スピードは、スキャンウィンドウが段階的に非表示になるために、「ゆっくり～速く」までの間で設定します。他の操作の邪魔にならないようにすることを望まれるのであれば、移行時間をより速く設定することをお勧めします。表示と非表示をすばやく切り換えたいのであれば、「徐々に非表示」を選択しないで下さい。

図 11. SmartTransparency™（環境設定…）

パネル表示時の透明度は、スキャン中もスキャンウィンドウを半透明にする時の透明度を設定します。あまり透明度が高いとスキャンウィンドウが見えなくなるので、ここで設定できる透明度の数値は 90％が最大です。

ウィンドウの非表示では、スキャニングをしていない時のスキャンウィンドウの透明度を設定しています。

カーソルの移動やクリックをスイッチスキャンで使用する場合、スキャンウインドウの透明度とは関係なく、スキャンウィンドウが存在している場所でクリックは可能です。通常のマウスを使用する場合、非表示の設定が 100%になっている時を除いては、スキャンウィンドウが存在している場所でクリックは出来ません。SwitchXS をスイッチユーザとマウスユーザが同時に使用するには、毎回邪魔にならない場所にスキャンパネルを移動するか、非表示を 100%の透明度に設定して下さい。

便利な機能

ここでは、SwitchXS をご利用の際の便利な機能を紹介します。

すべて初期状態にリセットする

スキャンパネルの位置など、すべての設定を初期状態にリセットしたいなら、「SwitchXS」メニューから、「SwitchXS の環境設定と終了をリセット」を選択して下さい。

不具合情報

Exposé との相性

SwitchXS を使用している時、Mac OS X 10.4 以降の Exposé 機能はご利用頂けません。一緒に使用すると、Exposé 機能が SwitchXS でコンピュータを制御することを邪魔してしまい、Exposé を終了することもできなくなります。この問題は既にアップルへ報告済みです。Exposé 機能は「システム環境設定…」で無効にできます。

フルスクリーンで動作するアプリケーションとの相性

アプリケーションには、フルスクリーンモードとウィンドウモードの両方で動作する製品があります。(例として、バーチャル PC、Timbuktu、ゲームなど)。SwitchXS は多くのフルスクリーンアプリケーションで問題なく動作しますが、動作しない場合はウィンドウモードでご使用下さい。フルスクリーンモードでは、スキャンウインドウが表示されない場合があります。

ログインウィンドウとパスワードで保護されたスクリーンセーバー

技術的な制限から、現在のところ SwitchXS で Mac OS X のログインウィンドウやパスワードで保護されたたスクリーンセーバーに対して、パスワードを入力することはできません。「システム環境設定…」の「ログインオプション（アカウント)」画面で「自動的ログインのアカウント」するようにコンピュータを設定して下さい。

Mac OS の標準アクセシビリティ機能

SwitchXS はメニューをスキャンさせるために「ユニバーサルアクセス」の「補助装置にアクセスできるようにする」を選択します。「補助装置にアクセスできるようにする」を選択するためには、アップルメニューから「システム環境設定…」へ、次に「ユニバーサルアクセス」へ、「補助装置にアクセスできるようにする」のチェックボックスにチェックをして下さい。ユーザー認証のため、ログインパスワードを入力するダイアログウィンドウが表示されますので、適切な操作を行って下さい。

SwitchXS はメニューや他のアプリケーション画面上のオブジェクトを扱うために「フルスクリーンキーボード」の設定でご利用頂けます。「フルキーボードアクセスを入にする」はアップルメニューの中の「システム環境設定…」にある「キーボードショートカット（キーボードとマウス)」の画面で設定できます。

SwitchXS は、Mac OS のアクセシビリティ機能である「複合キー」や「マウスキー」と組み合わせて利用出来ない仕組になっております。SwitchXS には「複合キー」機能をオンスクリーンキーボードに搭載しており、Mac OS の「複合キー」は必要ありません。「マウスキー」は、 普通のキーボードは使えるがマウスや他のポインティングデバイスを使えない人（またはマウスを使いたくない人)のために設計されています。SwitchXS は、普通のキーボードは使えないが、スイッチでコンピュータを操作したい方々を対象に設計しています。

「マウスキー」でスキャンパネルを利用することは必要なく、システムオペレーティングの混乱を招きます。

接続されていない装置

現在、SwitchXS はホットプラグに対応していませんのでご使用になりたい USB ゲームパッド、ジョイスティック、キーボード、またはそれらを代替するスイッチインターフェースを SwitchXS が起動する前にコンピュータに接続してください。また、 SwitchXS をご利用の間はプラグを抜かないで下さい。

入力メニューのスキャン

Mac OS X 10.4 以降におけるメニューバーにある入力メニューに対して、SwitchXS の「メニューをスキャン」の機能は正常に動作しません。

右側のメニューのスキャン

メニューバーの右側に配置されたメニューをスキャンすることはできません。この問題はアップルに報告済みです。

キーをスイッチとして使用する

Mac OS X10.5(Leopard)になり、SwitchXSは、キーボード、もしくはキーボードを代替するスイッチインターフェース選択する際、特定の機器を確認しませんが、環境設定のスイッチパネルで選択されたキーを設定します。つまり、このことは、設定したキーが、SwitchXSが稼働している間、キーはどんな機器でも利用可能にならないことを意味しています。

よくある質問（FAQ）

SwitchXS のインストールの方法は？	「インストール」の項 P8 を参照して下さい。
SwitchXS の利用情報設定方法は？試用版制限を取り払うには?	「ダウンロード版の利用情報設定」と「CD 版の利用情報設定」の項 P8 を参照して下さい。
SwitchXS の環境設定画面へのアクセス方法は？	「環境設定画面へ」の項 P20 を参照して下さい。
システムの環境設定のアクセス方法?	アップルメニューから「システム環境設定…」を選択して下さい。
Mac OS のユニバーサルアクセスの機能を利用する方法は?	「Mac OS の標準アクセシビリティ機能」の項 P30 を参照して下さい。
サポートを受けるには?	「サポート」の項 P33 を参照して下さい。
SwitchXS でログインする方法は？SwitchXS でスクリーンセーバーに対してパスワードを入力する方法は?	「ログインウィンドウとパスワードで保護されたスクリーンセーバー」の項 P30 を参照して下さい。
自分のスイッチ入力装置を SwitchXS で使用できるようにする設定方法は?	「クイックスタート」の項 P5 を参照して下さい。
SwitchXS に対応している入力デバイスは？	下記ホームページから最新の情報を入手して下さい。 http://www.assistiveware.com/switchaccess.php 日本語対応 info@at-market.org まで。

サポート

サポート手順

手順 1.　このマニュアルや SwitchXS のヘルプを参照します。このヘルプ機能は、SwitchXS がアクティブ状態（最前面）のとき、「ヘルプ」メニューを選択することで利用できます。

手順 2.　SwitchXS をお買い上げになった販売先に相談して下さい。

手順 3.　地域販売店にご相談下さい。

手順 4.　上記のいずれの方法も問題を解決できないか、もしくは AssistiveWare から直接ご購入頂いた場合には、下記メールアドレスに e-mail をお送り下さい。SwitchXS@assistiveware.com

地域販売店

下記は、当マニュアル作成時点での地域販売店のリストです。このリストの内容は更新されますので、最新の情報は下記 Web アドレスにて閲覧できます。

http://www.assistiveware.com/resellers.html

地域	販売店／販売代理店	ホームページからのお問合せ
日本	有限会社エーティーマーケット 〒160-0023　東京都新宿区西新宿 3-9-6 OYA ビル 6F 電話: 03-5333-1325 FAX: 03-5333-1326 Email: info@at-market.org Web: http://www.at-market.org/	有限会社エーティーマーケット （フルサポート） http://www.at-market.org/
北米 (USA, カナダ, メキシコ,カリビアン)	Origin Instruments Corporation （フルサポート） 854 Greenview Drive Grand Prairie Texas 75050-2438 USA Phone: 972-606-8740 FAX: 972-606-8741 Email: support@orin.com Web: http://orin.com/access/switchxs/	Origin Instruments Corporation （フルサポート） http://orin.com/ec/switchxs/
全地域	AssistiveWare *(英語、フランス語、ドイツ語でのｅメールのサポートのみ)* Van Speijkstraat 73-D 1057 GN Amsterdam The Netherlands Europe FAX: +31-20-6128266 Email: SwitchXS@assistiveware.com Web: http://www.assistiveware.com/	AssistiveWare *(英語、フランス語、ドイツ語でのｅメールのサポートのみ)* http://www.assistiveware.com/purchase.php

Software License Agreement

AssistiveWare / Niemeijer Consult

Software License Agreement

Single Use License

PLEASE READ THIS SOFTWARE LICENSE AGREEMENT ("LICENSE") CAREFULLY BEFORE USING THE SOFTWARE. BY USING THE SOFTWARE YOU ARE AGREEING TO BE BOUND BY THE TERMS OF THIS LICENSE. IF YOU DO NOT AGREE TO THE TERMS OF THIS LICENSE (IF APPLICABLE) RETURN THE NIEMEIJER CONSULT SOFTWARE TO THE DEALER WHERE YOU OBTAINED IT. DEPENDING ON THE TERMS OF DELIVERY OF YOUR DEALER YOU ARE ELIGIBLE FOR A (PARTIAL) REFUND.

1. General. The Software and documentation accompanying this License whether on disk, in read only memory, on any other media or in any other form (henceforth referred to collectively as the "Software") are licensed, not sold, to you by Niemeijer Consult for use only under the terms of this License, and Niemeijer Consult reserves all rights not expressly granted to you. The rights granted herein are limited to the use rights of the Software and do not include any other rights. You own the media on which the Software is recorded but Niemeijer Consult and/or Niemeijer Consult's licensor(s) retain ownership of the Software itself.

2. Evaluation copies. This license also applies in full for so-called demo or evaluation copies of the Software for which use is solely permitted for a period of a few days up to (in case explicitly stated) a maximum of 3 weeks before purchase. If the Software is not purchased within the stated period the Software should be removed permanently and completely from the computer(s) on which it has been installed.

3. Permitted License Uses and Restrictions. This License allows you to install and use one copy of the Software on a single computer at a time. This License does not allow the Software to exist on more than one computer at a time except for home use by a single individual. It is not permitted to use the Software on more than one computer at a time or make the Software available over a network where it could be used by multiple computers at the same time. You may make one copy of the Software in machine-readable form for backup purposes only; provided that the backup copy must include all copyright or other proprietary notices contained on the original. Except as and only to the extent expressly permitted in this License or by applicable law, you may not copy, decompile, reverse engineer, disassemble, modify, or create derivative works of the Software or any part thereof. THE SOFTWARE IS NOT INTENDED FOR USE IN THE OPERATION OF NUCLEAR FACILITIES, AIRCRAFT NAVIGATION OR COMMUNICATION SYSTEMS, AIR TRAFFIC CONTROL SYSTEMS, LIFE SUPPORT MACHINES OR OTHER EQUIPMENT IN (OR, MORE IN GENERAL, CIRCUMSTANCES UNDER) WHICH THE FAILURE OF THE SOFTWARE COULD LEAD TO DEATH, PERSONAL INJURY, OR SEVERE PHYSICAL OR ENVIRONMENTAL DAMAGE.

4. Transfer. You may not rent, lease, lend or sublicense the Software. You may, however, make a one-time permanent transfer of all of your license rights to the Software to another party, provided that: (a) the transfer must include all of the Software, including all its component parts, original media, printed materials and this License; (b) you do not retain any copies of the Software, full or partial, including copies stored on a computer or other storage device; and (c) the party receiving the Software reads and agrees to accept the terms and conditions of this License.

5. Termination. This License is effective until terminated. Your rights under this License will terminate automatically without notice from Niemeijer Consult or a Niemeijer Consult authorized representative if you fail to comply with any term(s) of this License. Upon the termination of this License, you shall cease all use of the Software and destroy all copies, full or partial, of the Software.

6. Limited Warranty on Media. Niemeijer Consult warrants the media on which the Software is recorded and delivered by Niemeijer Consult to be free from defects in materials and workmanship under normal use for a period of thirty (30) days from the date of original retail purchase. Your exclusive remedy under this Section shall be, at Niemeijer Consult's option, a refund of the purchase price of the Software or replacement of the Software, which is returned to Niemeijer Consult or a Niemeijer Consult authorized representative with a copy of the receipt. This limited warranty and any implied warranties on the media including, but not limited to, the implied warranties of merchantability, of satisfactory quality, and of fitness for a particular purpose, are limited in duration to thirty (30) days from the date of original retail purchase. Some jurisdictions do not allow limitations on how long an

implied warranty lasts, so the above limitation may not apply to you. The limited warranty set forth herein is the only warranty made to you and is provided in lieu of any other warranties (if any) created by any documentation or packaging. This limited warranty gives you specific legal rights, and you may also have other rights, which vary by jurisdiction.

7. Disclaimer of Warranties. YOU EXPRESSLY ACKNOWLEDGE AND AGREE THAT USE OF THE SOFTWARE IS AT YOUR SOLE RISK AND THAT THE ENTIRE RISK AS TO SATISFACTORY QUALITY, PERFORMANCE, ACCURACY AND EFFORT IS WITH YOU. Except for the limited warranty on media set forth above and to the maximum extent permitted by applicable law, the Software is provided "as is", with all faults and without warranty of any kind, and Niemeijer Consult and Niemeijer Consult's licensors (collectively referred to as "Niemeijer Consult" for the purposes of sections 7 and 8) hereby disclaim all warranties and conditions with respect to the Software, either express, implied or statutory, including, but not limited to, the implied warranties and/or conditions of merchantability, of satisfactory quality, of fitness for a particular purpose, of accuracy, of quiet enjoyment, and non-infringement of third party rights. Niemeijer Consult does not warrant against interference with your enjoyment of the Software, that the functions contained in the Software will meet your requirements, that the operation of the Software will be uninterrupted or error-free, or that defects in the Software will be corrected. No oral or written information or advice given by Niemeijer Consult or a Niemeijer Consult authorized representative shall create a warranty. Should the Software prove defective, you assume the entire cost of all necessary servicing, repair or correction. Some jurisdictions do not allow the exclusion of implied warranties or limitations on applicable statutory rights of a consumer, so the above exclusion and limitations may not apply to you.

8. Limitation of Liability. TO THE EXTENT NOT PROHIBITED BY LAW, IN NO EVENT SHALL NIEMEIJER CONSULT BE LIABLE FOR PERSONAL INJURY, OR ANY INCIDENTAL, SPECIAL, INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES WHATSOEVER, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, DAMAGES FOR LOSS OF PROFITS, LOSS OF DATA, BUSINESS INTERRUPTION OR ANY OTHER COMMERCIAL DAMAGES OR LOSSES, ARISING OUT OF OR RELATED TO YOUR USE OR INABILITY TO USE THE SOFTWARE, HOWEVER CAUSED, REGARDLESS OF THE THEORY OF LIABILITY (CONTRACT, TORT OR OTHERWISE) AND EVEN IF NIEMEIJER CONSULT HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES. Some jurisdictions do not allow the limitation of liability for personal injury, or of incidental or consequential damages, so this limitation may not apply to you. In no event shall Niemeijer Consult's total liability to you for all damages (other than as may be required by applicable law in cases involving personal injury) exceed the amount of fifty euro (euro 50.00). The foregoing limitations will apply even if the above stated remedy fails of its essential purpose.

9. Controlling Law and Severability. This License is established in the Dutch language, which will be regarded as the authentic language for this License. Any translation of this License is done for local requirements. In the event of a dispute between the Dutch and any non-Dutch versions, the Dutch version of this License shall govern. The agreement that will be entered in will be governed exclusively by Dutch law and disputes shall be exclusively brought in front of Dutch judges and courts in the Netherlands, unless prevailing International Treaties enforce a different regulation. In those cases where the choice of forum (court or judge) is not up to Niemeijer Consult but to the user of the Software the user obliges himself/herself to select a Dutch judge in The Netherlands. If for any reason a court of competent jurisdiction finds any provision, or portion thereof, to be unenforceable, the remainder of this License shall continue in full force and effect.

10. Complete Agreement. This License constitutes the entire agreement between the parties with respect to the use of the Software licensed hereunder and supersedes all prior or contemporaneous understandings regarding such subject matter. No amendment to or modification of this License will be binding unless in writing and signed by Niemeijer Consult or Niemeijer Consult's authorized representatives.

販売店：

販売代理店：